

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

2024年12月9日(月)

NO. 1536号

本号3頁

国民大運動などの国会行動「くらし優先政治へたたかうぞ!!」

第214回臨時国会で各党の代表質問が続くなか、衆議院第2議員会館前で4日昼、国民大運動実行委員会、安保破棄中央実行委員会、中央社会保障協議会が主催する「国会前定例行動」が開催されました。「財界と癒着の金権腐敗政治を一掃しよう」等と書かれた横断幕を掲げ100人の参加者が、「平和、命、暮らし最優先の政治の転換に向けてたたかうぞ」と唱和しながら、拳を突き上げました。

主催者あいさつで、秋山正臣代表世話人・全労連議長は、韓国での大統領が戒厳令発令を撤回した経過を紹介し、「市民が国会議員とともに国会に集まった。民主主義を守る民衆の力を見ました」と語り、国会行動の意義を強調。自民党の改憲案にある市民弾圧の緊急事態条項を批判し、「共産党など立憲野党と連携しながら、改憲・大軍拡を許さない運動を広げよう」と訴えました。

日本共産党の田村貴昭衆議院議員が国会報告を行い、「国民の多様な要求実現に向け、協力・共同を進めよう」と呼びかけました。

各団体からの決意表明では、新日本婦人の会中央本部の米山淳子会長が、33都道府県から134人が参加した次世代国会要請行動を紹介しました。「選択夫婦別姓を絶対に実現してほしい。自公が過半数割れの衆議院に続き、参院選で自公過半数割れに追い込む運動をしたい」と表明しました。

憲法改悪阻止各界連絡会議(憲法会議)の高橋信一事務局長は、衆院選で改憲勢力を3分の2割れさせた意義を強調し、岸田政権の改憲を断念させたたたかいにも触れ「3分の2割れに追い込み、改憲発議を不可能にしたのは、私たち市民運動だったと確信を持とう」と述べました。

その後、行動提起を安保破棄中央実行委員会の林竜二郎事務局次長が行い、シュプコールを日本自治体労働組合総連合の板山裕樹中央執行委員が行いました。

韓国「戒厳令」解除 民主主義希求する市民の勝利

そして、大統領弾劾案1日採決も否決!!

韓国の尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領は3日夜、1987年の民主化以降初めて非常戒厳を宣言したものの、解除を求める国会決議を受け、約6時間後の4日未明に撤回しました。

宣言を受けた戒厳司令官(陸軍参謀総長)の布告は、国会や地方議会、政党の活動、集会やデモなど市民の一切の政治活動を禁じ、メディアの報道や言論、出版も統制するものでした。

4月の総選挙で与党が大敗し過半数を占める野党が予算案に合意しないなど政権運営の行き詰まりを打開するためとされていますが、野党を「北朝鮮に従う反国家勢力」だと決めつけましたが、戦時に準ずる国家非常事態として非常戒厳を宣言したことは、民主主義破壊の暴挙に他なりません。

武装した戒厳軍の部隊が一時、国会に突入するなど、かつての軍事独裁政権を彷彿とさせる事態に、深夜にもかかわらず数千人の市民が国会前に駆けつけ、宣言に反対して国会内に入ろうとする国会議員を後押しし、解除決議の採決にこぎつけました。その国会関係者がバリケードを築いて軍の侵入を防ぐ様子も放映されました。

尹大統領の非常戒厳を打ち破ったのは「韓国社会、韓国国民の民主主義の強さ」です。

市民の頭をよぎったのは光州事件

大統領が突然宣言した「非常戒厳」に抗議し、国会前に集まった市民は「頭をよぎったのは光州事件だった」と語りました。光州事件とは、軍事独裁を続けた朴正熙(パク・チョンヒ)大統領の暗殺を受けて敷かれた戒厳令下の1980年、光州市での学生や市民の民主化要求運動を軍が武力弾圧し、240人以上の死者・行方不明者が出た事件です。

朴大統領暗殺後、軍を掌握した全斗煥（チョン・ドファン）は光州事件を起こし、その後、大統領に就任。軍事独裁を続けましたが、87年に学生や市民による大規模な運動で民主化が実現します。

5日、最大野党「ともに民主党」は、大統領弾劾案7日採決に付す方針決める

5日、同国会で過半数を占める最大野党「共に民主党」は、国会に提出していた尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領の弾劾訴追案を7日に採決に付す方針を決めました。同案は「非常戒厳」を宣言した尹氏が「憲政秩序の中断を図り、永続的な権力の奪取を企てる内乱未遂を犯した」などとし、その行為は違憲だと指摘しました。

ソウル市内では5日も、市民らが与党「国民の力」の本部前などで「尹錫悦を弾劾せよ」などと書いたプラカードを持って行動しました。

韓国自動車大手・現代自動車の労働組合は4日、毎週木曜日と金曜日にそれぞれ4時間のストライキを行うと発表しました。同労組が所属する金属労組は同日、尹氏が退陣しないなら11日から全面的なストを実施すると発表しました。

「共に民主党」の議員は5日朝、国会で「非常戒厳宣言は国民の間に重大な混乱と恐怖をもたらした」と改めて批判しました。

「国民の力」は4日夜から議員総会を開き、弾劾訴追案への反対を党の方針として承認しました。韓東勲（ハン・ドンフン）代表は5日の最高委員会で「混乱による国民への被害を防ぐため」だとして「可決に至らないよう努力する」と表明しました。一方で「違憲の戒厳令を擁護しようという意味ではない」と述べて尹氏の離党を要求しました。

尹氏は5日、金龍頭（キム・ヨンヒョン）国防相の引責辞任の意向を受け入れて免職とし、陸軍出身の崔秉赫（チェ・ビョンヒョク）駐サウジアラビア大使を後任に指名しました。

6日、韓国与党「国民の力」の韓代表が、弾劾訴追案に賛成する意向示す

韓国与党「国民の力」の韓東勲代表は、緊急の党幹部会議で「国と国民を守るため尹錫悦大統領の早急な職務執行停止が必要だと判断した」と表明し、弾劾訴追案に賛成する意向を示しました。尹氏が「非常戒厳」を宣言した3日に主要な政治家を「逮捕、収監しようとしていた」と確認したと述べました。

与党は5日には尹氏の弾劾訴追案に反対する方針を決めていましたが、韓氏が、尹氏が職にとどまると「国民を危険に陥れる」と指摘。「尹氏が職務を継続する場合には今回の非常戒厳のような極端な行動が再現される恐れが大きい」と強調しました。

韓氏によると、尹氏は高校で後輩だった韓国軍の呂寅兄防諜（ぼうちよう）司令官に「反国家勢力」を理由として主要政治家の逮捕を指示。ソウル近郊果川市の施設に収監しようとしていました。一部の韓国メディアは、韓氏を逮捕する計画もあったとの疑惑を伝えています。

7日 戒厳令発令の大統領弾劾訴追案は否決 与党議員が事実上ボイコット

韓国国会は7日、尹大統領の弾劾訴追案を採決。しかし与党の国民の力が事実上、投票をボイコットする形で、投票直前に多くの議員が本会場を離れた結果、賛成票が必要数に届かず否決されました。議員総数300人中200人以上の賛成で可決となるが、108席を占める与党議員はほとんど投票しなかった。200票に満たない195議員しか投票しなかったため、不成立となった。

■日本も危険な動き

今回の韓国での事態は、日本の憲法に「緊急事態」条項を新たに設けることの危険性を示しています。この間、自民、公明、国民民主、維新の改憲勢力は、緊急事態条項の創設を強く主張してきました。自民党の憲法改正実現本部は8月末に「論点整理」をまとめ、憲法9条への自衛隊明記とともに、「緊急政令」の制度を導入する必要があるとしています。

緊急政令とは、「異常かつ大規模な災害」に加え、『国難』とも言うべき、武力攻撃、テロ・内乱、感染症まん延等の緊急事態時に、国会が法律を作るのを待てないことを口実に内閣が制定するものです。

尹大統領が行ったように、内閣が緊急事態を勝手に判断し、緊急政令で人権を大幅に制限する危険があります。政治活動や報道・言論・出版の自由まで規制されかねません。韓国で遺物になったものを日本に持ち込むことは許されません。

先の総選挙では、改憲勢力の議席が改憲発議に必要な衆院の3分の2を下回りました。巻き返しを許さないため、日本でも民主主義の力をいっそう強く大きくしていく必要があります。

憲法会議拡大常任幹事会報告第二弾 **都道府県憲法会議・参加団体の発言**

東京憲法会議 金井克仁さん

東京憲法会議は、60年記念総会を3月20日に予定している。SNSの活用と発信に取り組んでいる。憲法審査会の傍聴に力を入れ、傍聴記を載せた「東京憲法ニュース」は好評。中央憲法会議のホームページに全国の活動交流欄を設けてほしい。

平和委員会 岩月康範さん

3年間の軍拡予算の財源確保されていないことは政府の大弱点、増税に走らざるを得なくなる。先の南西諸島での日米共同訓練は、抑止破綻後という想定であり、軍拡が抑止力になっていないことを示した。戦後80年、被爆80年で戦争の実相を若い人たちにどう伝えるか、平和大会で議論した。

和歌山憲法会議 東山邦夫さん

自衛隊が、防災スクールと称して町や高校に乗り込んできている。問題意識を持たない教員もいる。実態をどう伝えていくか課題だ。

広島憲法会議 石口俊一さん

高校と自衛隊の吹奏楽のコラボについて抗議し、軍歌など止めさせたら、産経新聞が「主張」で不当な介入と報じた。被ばく80年と憲法をどう結ぶか検討中。

鳥取県憲法会議 森下克彦さん

石破首相の膝下でがんばっている。毎月3日の米子駅前スタンディングなどに取り組んでいる。むまた、学習を力にと、月『月刊憲法運動』の論文を読み合わせしている。

石川憲法会議 板坂洋介さん

石川憲法会議は1年遅れて60年となる。毎月構成団体の6割の参加で会議を続け、昼デモや他団体との共同でスタンディングや集会など持続させている。こうした中で青年の活動家が生まれている。80年の具体化を議論する。

全司法の中矢正晴さん

60年記念行事手のうち、「次代につなげ、憲法トーク」は3回のトークをオンラインで行い、後日ショート動画も作り、普及するもの。実行委員会を構成し企画を進める。
※埼玉憲法会議の渡辺政成さん、宮城憲法会議の小野寺義象さん、新潟憲法会議の山口茂さんの発言は、11月28日号で紹介しました。

憲法講座の録画・レジメ等を憲法会議のホームページに掲載。ご視聴を!

<当日提出していただいた感想>

埼玉の猪股嘉直さん 永山茂樹教授の講演は「憲法の立場」と「軍事化のいま」を対照的に整理され、とても分かりやすいものでした。自民党政権がなし崩し的に憲法違反をくりかえし、戦争する国づくりを進めている状況がよく分かります。私たちの今後のたたかいに活かしていけます。新しい政治プロセスの中で、我々のたたかいをすすめていきたいと思えます。

中西喜一郎さん 光陽メディア九条の会

城間報告 沖縄の現状を知る。本土からは中々分からない。厳しさ、切実さ。このままではいけない。永山講演 改めて憲法の立場を示し、現在進行形の危うさを整理してもらいました。あべ・岸田政権で、ずいぶん進んでしまったと恐怖です。与党過半数割れの中、市民運動も攻め時のはずです。

戸成秀彰さん 国土交通労働組合

様々な視点のひとつとして学習できたことは有意義でした。また、特に永山先生によるこの間の軍事的事象に関するご説明はとても参考になりました。

お知らせ

衆院憲法審査会は19日に今国会での第1回目の審査会を開催することが5日の幹事懇談会で決まりました。内容、開催時間等は決まっています。

以上、赤嶺政賢事務所の情報です。

傍聴希望者は、前日午後3時まで憲法会議にご連絡ください。

